

東京第四団

機関誌

No

104

SMILE

September 8th 1979

動物奉行所からの警告

「これよりトラ殺しの件について吟味
たす。一同の者、表を上げい！。さてそこ
の人間、おまえがトラ殺しの犯人である事
は、調べにより明白である。それに相違な
いか。」

「お奉行様、めっそうもございません。そ
れは全くの偽わりでございます。」

「ほう、それは意外だな。ここに、おまえ
がトラを殺すのを見たという証人のエビが
居る。エビ君、君の見た事を話してくれ。」

「はい、私がのんびりと水浴を楽しんでい
ると、突然銃声がしたので見てみると、こ
の人が鉄砲を持っていて、近くにトラが倒
れていたんです。」

「このうそつきエビめ。お奉行様、犯人は
このエビでございます。」

「おい人間、うそをついているのはお前の
方だ。どんな生き物にも、尊い命というも

のがあるんだ。ありだって、犬にも鳥にも

森の中の獣にも、海の中の魚にも、植物に

だってあるんだ。そして、それぞれ生きる

権利というものを持っているんだ。お前は

生まれてから今までに、どれだけの生き物

を犠牲にしてきたかわかるか。お前一人の

為に、何千何万という数えきれない程の

の生き物が死んでいったのだ。そして、ど

んな思いをして、死んでいったかわかるか。

人間、それでもまだしらをきるつもりか。」

「お奉行様、すみませんでした。私がトラ

を殺しました。」

「これを読んでいるみんな、わかったかい。

要するに、どんな生き物にも命という尊い

ものがあるって、それを大切に守っていか

なくてはならない、という事が言いたか

んだ。さあみんな、どんな小さな生き物に

も目を配って、守ってやろうよ。ね。」

これにて一件落着

バスビクニック

ブラウニー

小谷 まみ子

五月三日に、ふじ緑の休か村に行きました。ガールスカウト、ボーイスカウト、父兄の人もいっしょでした。わたしは、五はんでした。ついた時寒かったですが、ふじ山が雪をかぶって大きく目の前に見えませんでした。すこしあそんで一ばんからしゅっぱしました。黄色いリボンをみつげながら歩きました。とちゅうでハタに花をかざったり、大きな声で「五はん」といったりしました。セキタンみたいな石がゴロゴロしているところでおべんとうを食べました。帰りは頭に花や葉やかれ草をかざってインディアンになったつもりで歩きました。

バスビクに行つて

カブ隊

森 田 陽 一

午前六時三十分にかを出て、山梨の富士緑の休暇村に行きました。バスに乗って行きました。むこうはテニス場があって、そのむこうにひろばがありました。ぼくたちはスタートまでハンカチおとしをしました。

ぼくは三回おとされました。ぼくらのスタートが早かったのか、一ばんがちずを写すのがたいへんだったかで、とまってしまいました。第一せきしよのときになんていうのかはわからないけど、わになんていろいろまたいだりぐったりしてとく人をまいらせたり、セミのぬけがらをひろってリーダーに見せたりしました。そのほかいろいろあって、家に帰ったら口もきけないほどつかれてしまいました。

思い出のキャンプ

ジュニア

花 沢 幸 子

私たち六年はジュニアでの最後のキャンプでした。毎年だいたい同じ内容ですが、私にはとても印象深いキャンプでした。

下級生と仕事の内容がうまくいかず、よくトラブルもおこりました。また家がこいしくてホームシックにかかった人もいました。でも何ごとも経験を積みかさねて、やっと思い出のページが開かれるのではないかとキャンプで思いました。でもみんなよく協力してやりました。またワイドゲームでは、その班ごとよく協力して、楽しくできたと思います。

こん度六年生になる五年生のみなさん、今の六年生以上にもっと、もっといい楽しいキャンプになるといいですね。みなさんには、この夏にいい思い出ができましたか。

山中湖キャンプ

ボーイ隊

小林 元 文

今年のキャンプは山中湖で行われた。

例年より参加者が多く、約7名ずつ3班が組まれた。新入隊員が15名という点でも、かなり大変だった。僕は受験で休みがちだったので、いざ指導の立場になると、いろいろ困ったことが多かった。

当日の雨を気にしながら新宿からバスで出発、昼近く緑にかこまれた湖のキャンプ場に着く。だれもふみこんでいないような林と緑に、一同は歓声をあげた。

僕達の班は、食べることにいてはいつも抜群だった。最後のやま場のリンツは、とても厳しかった。昼から夜にかけて歩き苦しむ所で一泊した。帰りは倍ちかく苦しく厳しい自分との戦いだった。どうにか全員突破、帰路につく。とても良い経験の、満ち足りたキャンプだった。



ハイキングの楽しさ

GSシニア

黒川 祐子

私達は八月一日から四日間、奥日光の中禅寺湖畔にある阿世瀉キャンプ場にテントを張りました。向こう岸の大尻とは無線で連絡をとるといって刃びな所。でも朝夕は特に涼しく、日中も蒸し暑さなどこれっぽっちも感じさせません。

シニアキャンプのハイライトといえば、ハイキングです。コンバスと地図を手に、三、四人のスカウトがグループになって所定の道を歩きます。ハイキングコースとい

っても道は沢山あって、一歩間違えば山中で遭難ともなりかねないというスリルに満ちあふれたハイキングです。道に迷ってもうダメかと途方に暮れること、しばしばです。

でも、危険だから楽しいのです。心配だからうれしいのです。ゴールでリーダーに会えたときの喜びは、一生忘れません。

レンジャーに上進して：

レンジャー

岩田 佳津子

レンジャーに上進して、すぐ、バスビクニックの班長という重要な仕事をやらされた。バスビクニックの班長は、今までやってきた組長とは違い、ブラウニー・ジュニア・シニア・カブ隊・ボーイ隊の他に、リーダーや、父兄の方々の安全を守らなければならぬ、そんな、責任重大な仕事ができるだろうか。と、とても不安だった。しかし、当日は、事故もなく、無事にバスビクニックを成功させることができたのでホッとした。

話は変わって：。レンジャーの集会和、シニアまでの集会では、大きな違いがある。レンジャーになると、集会のプログラムも

スカウトがたてる。レンジャーを巣立つともう、リーダーだ。レンジャーの3年間、りっぱなリーダーになるために、しっかりと勉強しようと思う。

新入隊員として

BSシニア隊

大島 啓

新入隊員としての最初の仕事は、シニア隊のメンバー・生活リズムなどに慣れる事ではないかと思う。しかしBSとシニアとは違いがあるので、なかなかシニア隊の生活リズムに慣れることはできないと思う。シニアになると年中行事など、すべての事に対して自分たちで考え、計画を立てなければならぬようになる。

先日、僕達シニア隊は、新入隊員歓迎のナイト・ハイクを行なった。東京から茅ヶ崎までの長い距離だっただけに、僕は何度も何度もこれ以上歩けるのだろうか、などと思った。仲間もみんな疲れきって、自分の事だけで精一杯だった。

BSの頃は、リーダーがいろいろと助けてくれたものだった。そして、シニアになってもリーダーがいつも見ていてくれるので、安心だ。

このページには、各隊ごとのスカウトからリーダーへ、リーダーからスカウトへ、今感じている事を書いてみました。

ブラウニー

スカウトから

リーダーは、夏のキャンプでは病気・けがもなく元気に帰ってこられること、冬のクリスマス会やおもちつきを楽しくできるようにと、考えてくださいます。

リーダーはスカウトがなかよく、おたがいにたすけあう心をもつようにいつもあたたくくみまもってくださいます。

私もリーダーになれるようにどりょくしたいと思います。

リーダーから

四月、旧三年生はフライアップして行き新一年生が加わり新たに集会が始まる。今年はどうな雰囲気かしら、どんなことをしようかしらと回を重ねる内に、小さなブラウニー達にそれなりの主張や個性を発見し、喜んだり、驚いたりする。小さなブラウニーはリーダーの姿を映し反省を促す鏡であると共に、私自身のスカウト活動の一本の支柱になっているように思う。

ジュニア

スカウトから

私は、ガールスカウトになって二年目です。前から、ガールスカウトにあこがれていました。今では、組長として、りっぱな組にするように努力しています。そして、友達ももうたくさんふえて、自分自身が、前より明るくなったようです。一週間の楽しみの一つになりました。

リーダーから

夏のキャンプの勉強大変だったでしょうが、ガンバリましたね。4年生は、始めての事、めずらしい事などの夏のキャンプの生活の中で発見した事を、ジュニアバッチに役立てて下さい。5・6年生も、ジュニアでしか味わえない勉強、スカウト生活を充分味わって、すてきな集会を送りましょう。

GSシニア

スカウトから

リーダーの仕事はたいへんだと思います。毎週土曜日のミーティング、キャンプの買い出し、私たちより一足先にキャンプ場の

下見、など。リーダー達にも、自分たちの事がたくさんあると思います。それなのにスカウトのことをとてもよく考えてくれるリーダーです。これからも、長くリーダーを続けてもらいたいと思います。

リーダーから

スカウトに望むことはたくさんあります。しかし、大きなことや無理なことを望むのではなく、誰でもできることです。みんなで大きな声で歌いましょう。きっとすてきな気持ちになるでしょう。キャンプの時にちょっと口ずさんでぐらんなさい。明るい気持ちになります。

レンジャー

スカウトから

今、リーダーに望むことは別にありません。なぜかと言うと私が真実を書いたら：考えただけでも恐ろしい。私は暗殺されてしまうかもしれない。特にレンジャーのリーダーはとて強いのです。とまあこれは冗談ですが、何もわからない私達を懸命に指導して下さい。リーダーに感謝します。これは真実ですよ。リーダーありがとう。

リーダーから

レンジャーでは自主プロを重視しているのですが、スカウトとしての意識がうすれ、単なるサークル活動のつもりでいるのではと思える事が時々あります。しかしながら外部との交渉など、なかなかしつかり出来てきていて、二・三年が高一をうまくリードしていくところなどもたのしいです。

カブ隊

スカウトから

土曜日の集会で、リーダーの姿が見える、とお兄さんの様にもお父さんの様にも見える。時にはふざけてしかられたり、ゲームを教えて下さったり、一語に歌ったりして、いつもお世話になっています。遠くからきびしい目で見ているリーダー。一生けん命やりますから、よろしくお願いします。

リーダーから

まず第一に体力をつけてもらいたい。カブのキャンプに参加して、すぐバテルスカウトが年々多くなっている様に思えるからです。又、基礎を大切にしてもらいたい。そうしなければ上進して、基礎の上に成り立った様なことが、できないからです。

ボーイ隊

スカウトから

僕達スカウトから見るとリーダーはとてもたくましく、やさしく、たのしく見える。ボーイでの経験は学校で学べる事と違い、又、家庭体験とも違って、見る物聞く物すべて興味深い。僕には兄がいないので、リーダーを手本にして立派なスカウトになる様に努力したいと思っています。これからもよろしくお願いします。

リーダーから

社会が成熟すると、人間の欲求とその充足との間隔は極めて短くなる。つまり欲しいものがすぐ手に入る様になる。この様な環境で育てられた人間は一見ものに執着しないように見えるが、何かのきっかけで何物かの不足がはつきりした時、自己中心的な欲望がむき出しになる。最近のスカウトを見ているとふとそんなことを考える。

BSシニア隊

スカウトから

スカウト生活を始めて以来いろいろなことがありました。だがこのいろいろなことを、今まで、スカウトたちの心の中に残し

ておけたのも、みんなリーダーという目立つようで、目立たない人物がいたからではないでしょうか。スカウトとしてこれからも今ままでどうりお願いします。

リーダーから

最近のスカウトを見ているとシニアまで上進するスカウトが少ない様です。私達リーダーは、カブやボーイのスカウト全員がカブ、ボーイスカウト活動だけで終らずにシニアスカウトとして活動し、リーダーになるまで活動して欲しいと思っています。また、ボーイスカウト活動に広い考えを持ってつづけて欲しいと思っています。



靈南坂教会と我々スカウト

金子 和 樹

僕と靈南坂教会の出会い、昭和四十四年十二月十九日であった。それは忘れもしないカブ隊への入隊式であった。それから九年の月日が流れたのである。毎週土曜日に制服を着て、カブの集会に行き、楽しくリーダーと遊んだものだし、またボーイ隊の時はキャンプへ行ったりした。そして今はシニア隊に在籍していて、僕の頭の中には、ボーイスカウトのことしかない。

そんな中でいったい僕と靈南坂教会との関係はなんであろうか。

靈南坂教会は、赤坂の高台にあり、周囲は緑に囲まれ、すぐそばにはアメリカ大使館があるという非常に環境の良い所にあるのだ。僕は毎週土曜日になると、ボーイスカウトの集会のために教会に来るのだ。そして、あの建物を見ると、なんとなく心が落ちつくのである。これは教会に来ていた人ならば誰でもわかると思うし、キャンプに行く時も教会から出発して教会にもどってくる。我々スカウトは、教会にもどっ

て来てこそ、キャンプから帰ってきたんだ

なあと思うものだ。たぶん、この教会は我々スカウトにとって必要だと思う。いや、絶対に必要なのである。あの高くのびた教会の塔、日本離れたあのレンガ造りの建物・階下講堂・すみれの部屋・そして我々が使わせていただいているスカウトハウス。これがもしなくなってしまうたら、我々はどこで集会を行なえばいいのだろうかという現実的な問題と、我々いやすべての教会に来ていた人の頭の中から何かを何者かに奪われたようなものではないだろうか、これは「もし」という仮定の話であるが、これが現実になったら僕たちはどうすればよいだろうか。いつも使っている部屋、スカウトハウスなどが、建設会社の人々に壊

わされてしまうのだ。これは絶対にあってはいけないことだと思う。つまり結論を言うとう靈南坂教会の中にボーイスカウトの我々がいて、我々の頭の中にあの靈南坂教会の建物があると思うし、毎週土曜日、我々スカウトは薄れかけた教会のイメージを取りもどしに行くのである。

「靈南坂教会は永遠だ！」なぜならば、僕のほかに、この教会が好きなスカウトがまだたくさんいるからである。

教会と私達

鈴木 祥 子

ボーイスカウト、ガールスカウトには特に決まった宗教というものがなく、各団によって様々な宗教に別れています。

その中で私達の団はキリスト教の中のプロテスタントを信仰し、大きな行事をする時も毎週の活動をする時も、いつもチャータスカウトとして活動しているわけなのです。

小さい頃からチャータスカウトとして育った私達には、チャータスカウトとして行動することがあたりまえとなっているので、クリスマス、キャンプファイヤー等、何かの行事で教会の先生のお話しを聞く時や、お祈りをして頂く時にしか自分がチャータスカウトであることを思い出す事ができない人がいます。

しかし実際、毎週の集会だって教会という建物が、また長老会という組織がなければ行なえないという状態である私達にとっ

て、教会は大切な存在なのです。説明いたしますと、我々の団は靈南坂教会の長老会という組織の中の教育部に属し、

その中にスカウト担当の部門があって始めてボーイスカウト港第一団、ガールスカウト東京第四団となって活動ができるのです。

これで少しは教会と私達の関係と、毎週土曜日になると私達が霊南坂教会に集まる理由がわかって頂けたと思います。また私達と教会とを結びつけるものは教会の内部だけではありません。もう一つは、あの建物です。高速道路からも見ることが出来る建物。まわりを緑に囲まれて、赤レンガとステンドグラスでいかにも教会らしく飾られた建物に、私達は一種の誇りを感じています。

家の宗教がキリスト教以外の宗教であっても、『奉仕』というスカウト精神は、キリスト教精神につながっているのです。ですから霊南坂教会のスカウトとして行動している以上、キリスト教を今以上に深く理解し、自分達のチャーチスカウトとしての意識を高め、OBでいらっしゃるアメリカのデザイナー、大浜良友さんがデザインしてくださった教会のマーク（第一〇三号スマイルの表紙）を私達の団のシンボルとし、常に霊南坂教会のスカウトらしく光の子として、まっすぐ正しい方向へ、教会と共に歩んでいかなければならないのです。

神と国とにまことをつくし

飯 清

私が子供の頃、ボーイスカウトはちょうど「ミニ・軍隊」のようでした。軍国主義や国粹主義が段々強くなり、教育をはじめ社会全般が狂った方向にむかっている時でした。だからスカウト運動も、例外ではありませんでした。

スカウトは「団杖」という棒をもって、銃剣術まがいの訓練が行われたり、三指の敬礼などの外に、「棒げ杖」という敬礼の仕方がありました。「ちかい」の第一項は「神と国とにまことを尽し……」というのではなくて、「皇室を尊び、神仏を敬いませ」という表現でした。そして天皇を神と呼んで、誤った愛国心の強調がスカウトの中でくり返されていました。私がスカウトにいた何年かの間に、ベーデン・パウエルなどという名を一度も聞いたことはありませんでした。

私は、この愛する日本の国とそしてスカウトが、再びあのような愚かな誤ちを繰り返さないために、みんなが目を覚ましていなければならぬと思います。

「神にまことを尽す」ことは、神ではない人間を神にまつりあげて、拜んだりすることではありません。神ではないものを断固として拒否することを含みます。

「国にまことを尽す」ことは、政治家の言うことを無批判に受けとって、日本だけをすぐれた国のように考え、他国を馬鹿にしたり、自分の国だけの利益を求めることではないのです。「愛国心」というのは、もう二度とあんな馬鹿な戦争をしないために、「誤ちはくり返しません」と固い決心をもって、平和を守りぬくことです。

スカウト育成団体としての霊南坂教会では、このようなことに特に注意深く進みたいと願っています。戦争マンガを見ながら「カッコイ」と叫んで、プロレスやボクシングでもみるように、殺し合いとあの悲惨だった爆撃や、食べる物もなくなってしまう「カッコワルイ」戦争の現実を、忘れずに教えることこそ、本当に「国にまことを尽し」て「愛国心」を育てることなのです。

段々、昔のような方向に戻りたい政治家や、盲目の一般国民がふえてきた中で、スカウトだけは目を覚まして「神と国とにまことを尽し」たいものです。

シニアって、どんなこと
やってるの？」

原 陽 一

(ある土曜日の午後、教会幼稚園の庭で)
ボーイスカウト「あのー、シニアってほくらの集会が終わる頃来て、シニアの部屋の中でゴソゴソやっているようだけど、いったい何をやってるの？」

シニアスカウト「シニアではね、キャジブでも何でも自分たちで計画を立てて実行するんだ。学校で運動クラブに入っている人も多くて、毎週全員が集まるのは大変だけど、係を分担してがんばってるよ。ガールスカウト「ねえねえ、ちょっときいていい？ シニアのやってる移動キャンプっておもしろいの？」

シニア「うん、普通のキャンプとちがって一晩泊ったら翌朝はまたテントをたたんで二〇キロ位歩かなきゃならないからきびしいけど、とてもやりがいがあるよ。」
ボーイ「シニアってたいへんそうだけど楽しそうだね。バスビクやキャンプファイアーなんかもやるんでしょう。」
シニア「うん、そうだよ。だから高校生になつたら、ぜったいシニアに来いよな。」

スカウト・ファンタジー

中 村 桃 子

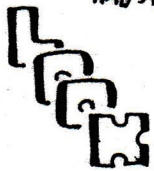
G Sをやって良かったとよく聞くけれど誰でもそう思えるとは限らないと思う。他の事と同じように一生懸命やった後で初めて「続けてよかった。」と言える。リーダーになつてからスカウティングの本当の良さや判ると言うのもその為でしょう。一生懸命やるにはどうしたらよいか。勉強やおけいこで忙しい私達。でも、毎週集会には来てほしい。全員が来れば連絡や決め事もその場で出来ます。そしてもう一つ。それはG Sでは他の時と違って教わる事よりも自分で発見していく事が多いという事です。正解も点数もないから自由に行動できます。この二つを守って積極的に参加する事は大変ですが、もっと重要なのはリーダーになるまで続ける事です。「やって良かった」と思うことは「自分の為になった。他では得られない友人・知識・経験を持った」と言う事です。リーダーになるともっと素晴らしい幸せな気持ちで「やって良かった」と思えます。でもそれは、皆さんがリーダーになるまで内緒にしておきましょう。

S. 54, 2/8 発刊

第104号 (復刊6号)

発刊人: 萩第4団スカウト

編集人: 港 虎, 門3-16-5



土屋 章 啓
大島 恵 子
小 林 美 幸
皆 沢 美 幸

各隊のキャンプ地

- ブラウニー・群馬県 長野 原田
- カブ・長野県 上 田
- ジュニア・千葉県 小林 牧場
- B・S・山梨県 山中 湖
- GSシニア・栃木県 阿世 湯
- BSシニア・小淵沢 → 軽井 沢
- Lシニア・神奈川県 丹 沢